

畜産みやぎ

発行所
 仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
 社団法人 宮城県畜産協会
 電話 022-298-8473

編集発行人
 木村春雄

印刷所
 (株)東北プリント



国産食肉等消費拡大産地交流会 (於：加美町)

もくじ

CONTENTS

| | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 平成19年度畜産施策の概要と新規事業の紹介 ……2 | <実践大 学校生の抱負> 私の抱負 ……8 |
| 平成19年度畜産施策の基本方針と主要施策 ……4 | <畜試便り> 飼料用トウモロコシの播種は早めに！ ……9 |
| 県庁機構改革について ……5 | 社団法人 宮城県畜産協会 組織機構改編のお知らせ …10 |
| 耕畜連携水田活用対策による自給飼料増産 ……6 | <人の動き> ……11・12 |
| 国産食肉の産地交流会を開催しました ……7 | |
| <衛生便り> 牛ヨーネ病について ……8 | |

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
 Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、植物性大豆油インキを使用しています。

平成19年度畜産施策の概要と新規事業の紹介

宮城県農林水産部畜産課

I 基本方針

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物の需要に支えられ、農業産出額の35%を占めるまでに成長し、畜産主産県としての位置を確立しています。また、畜産物の生産活動を通じた環境の保全という本来的な役割に加え、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしています。

平成13年9月の国内でのBSE発生以降、食品・農産物の偽装表示、無登録農薬や添加物の使用など、消費者の信頼を揺るがす事態が発生し、安全・安心な食品への消費者の関心が高まる中、畜産物への信頼と支持を獲得するための生産体制を築くことが急務となっています。また、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化が懸念される中、WTOやEPA交渉による国際化への対応ための低コスト化、担い手を中心とする強い農業づくり、環境への負荷軽減や国内外での高病原性鳥インフルエンザの発生などに対応する家畜衛生対策の強化も求められています。

県では、「みやぎ食と農の県民条例」（平成12年7月10日公布）及び「みやぎ食の安全安心推進条例」（平成16年3月23日公布）に基づき、農業・農村振興や食の安全安心確保の実現に向けた関係施策を総合的に推進しております。

また、平成17年度に見直した「宮城県酪農及び肉用牛生産近代化計画」及び「宮城県家畜改良増殖計画」は、本県が自給飼料基盤に立脚した畜産主産地として、一層競争力を強化するための総合的な指針であり、酪農及び肉用牛生産が有する機能や役割等を踏まえ、国際化の進展にも対応し得る酪農及び肉用牛生産の振興方向を示しております。

平成19年度の具体的な施策としては、サーベイランスやモニタリング検査等により、引き続き高病原性鳥インフルエンザの発生予防対策の強化を図ります。また、耕畜連携による自給飼料の生産推進に取り組むとともに、畜産環境対策としては、簡易処理で家畜排せつ物処理の対応をしている農家の施設整備と併せて、たい肥保管庫を整備し、家畜排せつ物の利用促進を進めます。さらに、肉質と肉量を兼備した肉用牛生産体制を確立するとともに、生産性の高い酪農経営を目指した牛群の改良やヘルパー制度の充実を図ります。あわせて、系統豚「しもふりレッド」の生産供給体制の維持を図るとともに、抗病性と産子数の増加などの特長を加えた新たなランドレース種の系統造成を引き続き実施していきます。

なお、これら施策の展開に当たっては、「消費者に信頼される高品質な宮城の畜産」をスローガンに、次の六項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、富県戦略の一翼を担う産業として幅広い視点から総合的な施策を展開してまいります。

- 1 畜産物の安心・安全性の確保と生産支援
- 2 21世紀みやぎの肉用牛生産の振興
- 3 先進的な養豚経営の振興
- 4 ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興
- 5 飼料自給率の向上と畜産環境の改善
- 6 新たな畜産技術の開発と活用

II 平成19年度畜産課当初予算一覧表

| 科目・事業名 | | 本年度予算額 (千円) |
|--------|-----------------------|-------------|
| I | 畜産総務費 | 689,196 |
| II | 畜産振興費 | 1,570,167 |
| | 01 家畜改良増殖事業費 | 64,745 |
| | 02 家畜改良対策事業費 | 4,002 |
| | 03 畜産高度生産技術実用化促進事業費 | 8,499 |
| | 04 畜産流通対策事業費 | 45,301 |
| | 05 地域畜産振興事業費 | 120,689 |
| | 06 畜産環境総合整備事業費 | 664,818 |
| | 07 みやぎの快適畜産総合対策事業費 | 19,219 |
| | 08 畜産団体等育成強化事業費 | 167,182 |
| | 09 公共育成牧場対策費 | 99,867 |
| | 10 草地開発整備事業費 | 101,132 |
| | 11 自給飼料生産対策事業費 | 1,455 |
| | 12 流通飼料対策事業費 | 2,331 |
| | 13 学校給食用牛乳供給事業費 | 364 |
| | 14 生乳流通改善対策事業費 | 2,173 |
| | 15 畜産振興総合対策推進事業費 | 335 |
| | 16 21世紀みやぎの牛づくり活性化事業費 | 268,055 |
| III | 家畜保健衛生費 | 96,116 |
| | 01 家畜伝染病予防事業費 | 52,494 |
| | 02 家畜保健衛生費 | 27,066 |
| | 03 家畜衛生事業費 | 16,556 |
| IV | 畜産試験研究費 | 476,497 |
| | 01 人件費 | 368,442 |
| | 02 事務費 | 96,697 |
| | 03 試験費 | 11,358 |
| 合 計 | | 2,831,976 |

III 平成19年度の主な新規事業

家畜排せつ物広域流通円滑化事業 (県単)

良好な有機肥料資源である家畜排せつ物の安定的かつ広域的な流通を進め、その利用促進と資源循環型農業の推進を図るため、たい肥保管施設の整備に要する経費に助成する。

- (1) 実施地区 県内一円
- (2) 事業実施主体 市町村、農業協同組合、営農集団 等
- (3) 事業実施期間 平成19年度～20年度
- (4) 19年度予算額 17,500千円

平成19年度畜産施策の基本方針と主要施策

消費者に信頼される高品質な宮城の畜産

宮城県の家畜飼養状況

| | | | | | |
|-----|----------|-------|-------|---------|-------|
| 乳用牛 | 28,300頭 | 全国9位 | 採卵鶏 | 5,415千羽 | 全国16位 |
| 肉用牛 | 95,300頭 | 全国7位 | ブロイラー | 1,772千羽 | 全国14位 |
| 豚 | 211,900頭 | 全国15位 | | | |

(H18. 2. 1 現在)

畜産物の安心・安全性の確保と生産支援



鶏舎の石灰散布

- ◆牛海綿状脳症対策 【88,030千円】
 - ・24ヶ月齢以上の死亡牛の全頭BSE検査
 - ・牛脊髄吸引装置の導入支援等で安全・安心な牛肉流通の確保 等
- ◆家畜保健衛生対策 【96,116千円】
 - ・高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の防疫監視体制整備 等
- ◆飼料安全対策 【2,331千円】
 - ・飼料の栄養性や安全性についての立入・成分分析検査 等

【186,477千円】

21世紀みやぎの肉用牛生産の振興



種雄牛「奥北茂」

- ◆肉用牛改良対策 【380,423千円】
 - ・優れた種雄牛の造成を図り市場価値の高い「仙台牛」「仙台黒毛和牛」の産地化の推進
 - ・優れた遺伝能力を持つ繁殖雌牛の組織的な改良増殖の推進 等
- ◆肉用牛経営安定対策 【268,598千円】
 - ・肉用子牛等の各種畜産物価格安定制度の積極的活用
 - ・畜産コンサルタントによる経営分析・指導 等

【649,021千円】

先進的な養豚経営の振興



期待の系統豚「しもふりレッド」

- ◆豚改良対策 【47,223千円】
 - ・本県独自の雄型系統豚「しもふりレッド」の維持・増殖及び県内養豚農家への供給体制維持
 - ・「しもふりレッド」との交配による銘柄豚生産のための、系統豚「ミヤギノ」に代わる新たな系統豚の造成 等
- ◆養豚経営安定対策 【7,182千円】
 - ・豚人工授精技術等の確立を図り、効率的な優良種豚の安定生産
 - ・豚枝肉の価格安定制度への加入促進 等

【54,405千円】

ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興



本吉育成牧場

- ◆乳用牛改良対策 【34,025千円】
 - ・乳用牛群検定等による、牛群能力と生乳生産性の向上 等
- ◆酪農経営安定対策 【153,691千円】
 - ・加工原料乳補給金等の各種畜産物価格安定制度の積極的活用
 - ・酪農ヘルパー制度の普及定着・岩牧預託牛受入等による「ゆとりある経営」の推進 等
- ◆牛乳・乳製品等流通対策 【2,537千円】
 - ・生乳の計画生産の推進
 - ・学校給食牛乳の供給 等

【190,253千円】

飼料自給率の向上と畜産環境の改善



水田放牧

- ◆飼料生産基盤対策 【262,587千円】
 - ・各種事業により、飼料基盤や施設等の整備を行い中核的な畜産農家の育成 等
- ◆みやぎの快適畜産総合対策 【684,037千円】
 - ・各種事業により、広域堆肥センターや共同堆肥舎等の整備を行い地域と調和の取れた畜産の振興 等
- ◆畜産振興推進対策 【58,592千円】
 - ・肉畜鶏卵の生産出荷調査、養ほうの転飼調整、家畜商講習会等の実施 等

【1,005,216千円】

新たな畜産技術の開発と活用



南安平のクローン牛

- ◆バイオテクノロジー等の開発と活用 【8,499千円】
 - ・受精卵移植技術の育種改良への活用促進
 - ・DNA等の遺伝子レベルでの家畜改良のための技術確立 等
- ◆新技術の利用と普及対策 【37,859千円】
 - ・受精卵移植技術による優良種牛生産の促進

【46,358千円】

畜産課予算合計

1,666,283千円

県庁機構改革について

宮城県農林水産部畜産課

平成9年度にスタートした「新しい県政創造運動」の柱の一つとして、平成11年4月にそれまでの商工労働部・農政部・水産林業部の三部を統合して産業経済部が誕生しました。三部統合は、「政策課題に即応できる組織体制」、「県民・市町村にとって効果的・効率的な組織体制」、「柔軟性・機動性の高い分権化された組織体制」の3点を基本としました。

以来、各産業分野の縦割り構造を解消しながら、県内の第一次産業から第三次産業まで振興施策の一体的且つ横断的な取組みを積極的に推進してまいりましたが、8年が経過する間、社会経済情勢の変化に対応するため、当初の21課から23課1室に増加するなど、組織の規模拡大が進行したほか、県民の方々から「第1次産業の振興に繋がる取組みが見える、県民全般にとって分かりやすい組織」、「県内の第一次産業従事者の士気向上が図れる組織」の構築が望まれていました。

今後、「富県戦略」を最優先の政策に掲げ、真に豊かな県民生活の実現に取り組むためには、即効性と専門性が発揮できる組織体制として、平成19年4月から2部体制に改め、農林水産業といった第一次産業が本県の基幹産業であることを再認識し、また、担い手不足や産地間競争など厳しい環境にある第一次産業の振興に取り組み、豊かな農林水産資源に根ざした県土づくりを推進するため「農林水産部」が設置され、その中で畜産課は今後とも畜産振興につとめていくこととなりました。

農林水産部 各課室 業務概要

| | |
|-----------|---|
| 農林水産総務課 | 調整班 総務班 給与・旅費管理班 管理班 予算管理班 主な業務 農林水産行政の総合的な調整、災害対応、部の総務、組織・人事管理、予算管理など |
| 農林水産政策室 | 企画班 主な業務 農林水産行政の総合的な企画、富県宮城の推進（農林水産部関係）、農林水産に関する試験研究の企画・調整など |
| 農林水産経営支援課 | 団体指導班 金融班 検査第一班 検査第二班 経営指導班 主な業務 農林水産業の経営施策・金融施策の企画・調整、農林水産業団体の育成施策の企画・調整、農林漁業経営の改善普及、農林水産業の金融、農林水産業団体の指導監督など |
| 食産業振興課 | 食産業企画班 食ビジネス支援班 ブランド推進班 販売支援班 新食材振興チーム 主な業務 農林水産物の流通・販売の企画・調整、食に関する産業振興施策の企画・調整、食の安全に係る企画・調整（農林水産部関係）、県産食品のブランド化、新食材の振興など |
| 農業振興課 | 調整班 企画指導班 農地調整班 経営構造対策班 農業人材育成班 普及計画班 普及指導チーム 主な業務 農業振興施策の企画・調整、農業経営基盤強化促進対策、農地の権利関係の調整、農業技術の改良普及、農業の後継者・担い手の育成、経営所得安定対策、経営構造対策事業など |
| 農産園芸環境課 | 農産食糧班 水田農業班 園芸振興班 先進農業推進班 環境対策班 環境保全班 主な業務 農産物の生産・流通、米の消費拡大・生産調整、農産加工、園芸振興施策の企画・調整、農業公害対策、持続的農業の推進、農薬の安全・適正使用の確保、農地・水・環境保全向上対策（営農活動支援）など |
| 畜産課 | 企画管理班 草地飼料班 生産振興班 衛生安全班 主な業務 畜産振興施策の企画・調整、家畜商及び畜産物の生産・流通・価格安定、飼料に関すること、家畜環境の整備・保全、家畜の改良増殖、獣医事及び動物用医薬品など |
| 農村振興課 | 指導班 企画調整班 地域計画班 技術管理班 広域水利調整班 農村振興対策チーム 主な業務 農村振興に係る企画調査・事業調整・計画、土地改良法の施行、農業・農村集落整備の調査・計画、農業水利の調査・調整、中山間振興対策、グリーンツーリズム、農地・水・環境保全向上対策（共同活動支援）など |
| 農村整備課 | 事業経理班 換地・用地班 ほ場整備班 農村環境整備班 防災対策班 水利施設保全チーム 主な業務 経営体育成基盤整備、換地・交換分合、かんがい排水施設の整備・維持管理、農地防災・災害復旧、農道の整備、農業集落排水など |
| 林業振興課 | 企画推進班 地域林業振興班 みやぎ材流通推進班 林業基盤整備班 主な業務 林業・木材産業振興施策の企画・調整、地域森林計画、林業技術の改良普及、林業の後継者・担い手の育成、県産材の生産・供給体制の整備・流通、林業・木材産業の構造改善、林道の整備、特用林産物の生産・流通など |
| 森林整備課 | 管理指導班 森林育成班 県有林班 治山班 主な業務 森林整備（林道以外）、森林の保全、森林の保護・病虫害防除、県有林管理、林野災害の防止対策、保安林管理など |
| 水産業振興課 | 調整企画班 流通加工班 漁業調整班 漁船漁業班 主な業務 水産業振興施策の企画・調整、沿岸漁業・内水面漁業の調整・許可・漁業権の免許・登録、水産業技術の改良普及、水産業の後継者・担い手の育成、漁業取締り、水産物の流通対策、水産加工業の振興、海区漁業調整委員会など |
| 水産業基盤整備課 | 漁港管理班 漁港漁場整備班 養殖振興班 資源環境班 主な業務 漁港の指定・管理・保全、漁港・漁場・漁村の整備、沿岸漁業構造改善、漁場環境対策、養殖業の振興対策、水産資源の増殖・管理、魚介藻類の防疫など |

耕畜連携水田活用対策による自給飼料増産

宮城県農林水産部畜産課

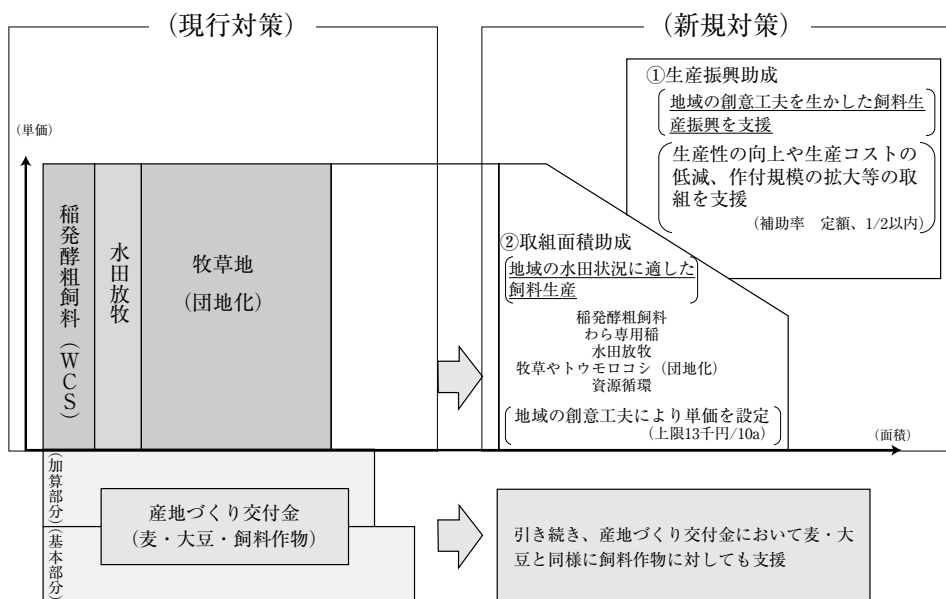
—水田を活用した飼料作物生産の推進—

飼料作物の生産につきましては、飼料自給率の向上を目標に（平成15年度の自給率24%→27年度に35%）国、県等関係機関が一体となって飼料増産運動に取り組んでいます。

こうした中、水田における飼料作物の生産振興を促進するために、平成19年度から新たな耕畜連携水田活用対策事業が始まります。耕畜連携水田活用対策事業は、既存の耕畜連携推進対策を拡充した事業で、現行対策における飼料作物の団地化、稲発酵粗飼料等の飼料作物生産支援に対する助成（取組面積助成）に、飼料作物の収穫機械、水田放牧牛等の導入助成等（生産振興助成）が加わりました。（図-1 耕畜連携対策のイメージ参照）

耕畜連携対策の具体的内容 (耕畜連携水田活用対策事業)

図-1



耕畜連携水田活用対策事業は、水田を所有する耕種農家と畜産農家の連携を今まで以上に強化することにより、「牛-土-草」の循環による持続的な飼料生産体系や資源循環型農業を推進するものです。

平成18年の県内における飼料作物の作付け面積は、15,400haとなっており、このうち、水田における作付け面積は6,730haで全体の4割以上となっています。

水田における飼料作物生産のうち、特に力を入れているものに稲発酵粗飼料生産があります。稲発酵粗飼料は、水田の機能を維持したまま取り組めるため、作付は増加傾向にあります。平成18年の作付けは17市町

村で248haでしたが、19年は18市町村で300ha以上の作付けが見込まれています。収穫につきましては、専用収穫機を所有する(社)宮城県農業公社や生産組織が作業受託を行っています。是非、多くの方々に水田を活用した飼料作物生産に取り組んでいただければと考えています。

なお、詳しい事業内容は、地域水田農業推進協議会や最寄りの地方振興事務所農業振興部・畜産振興部、家畜保健衛生所までお問い合わせ願います。

表-1 取組面積助成の取組内容等

| | |
|-------|---------------------------------|
| 助成対象者 | 認定農業者や一定の要件を満たす生産集団等 |
| 取組内容 | 飼料作物の団地化、稲発酵粗飼料生産、水田放牧、資源循環等の取組 |
| 助成単価 | 13千円/10a以内 |

表-2 生産振興助成の取組内容等

| | |
|-------|---|
| 助成対象者 | 3戸以上の農業者等で構成される組織又は団体等 |
| 取組内容 | 1 水田飼料作物の生産や利用に係る調整活動等 2 飼料生産ほ場の簡易な基盤整備 3 水田における飼料作物等の生産及び水田放牧に必要な機械の整備又は放牧用の牛の導入 |
| 助成単価 | 調整活動等：定額 他：1/2以下 |

国産食肉の産地交流会を開催しました

社団法人 宮城県畜産協会

国産食肉の安心・安全の周知と消費拡大を図るため、宮城県畜産協会が主催となり、去る2月22日加美町において一般消費者との産地交流会を開催しました。

地元の加美町及びJA加美よつば並びに生産者の方々の多大なるご支援ご協力の下、仙台市内及び地元消費者の方々総勢71名の参加があり肉用牛経営の視察と意見交換を行いました。

消費者から輸入牛肉の安全性や自給飼料に対する農薬使用への不安の声が多く出されました。一方、生産者の立場からは牛に対して愛情を込めて生産しており、国産の牛肉価格が何故高いのか理解して欲しいなど活発な意見が交わされました。

交流会に参加してみて、「国産食肉への関心が深まり大変有意義でした」との意見が多く寄せられ、相互理解の醸成が図られました。

〈衛生便り〉

牛ヨーネ病について

大崎家畜保健衛生所

ヨーネ病は、ヨーネ菌の経口感染によっておこる牛、めん羊等の伝染病で感染してから下痢、削瘦等の発病までに1～3年、時には5年から8年以上もかかる慢性の腸管感染症です。

我が国での発生は1930年に外国から輸入した牛での発生が初めてです。全国的にみると、発生頭数は増加傾向に、発生地域は拡大傾向にあります。宮城県では、平成13年度から乳用牛のブルセラ病・結核病の定期検査にヨーネ病の検査が加わり、6年が経過しました。本年度管内では、定期検査、導入牛の着地検査、牧場入牧牛の検査等で2月末まで約4,500頭の検査を実施、5頭の発生がありました。産地別では、4頭が他県・県内他地域の生産で、1頭が自家産、品種別では、3頭が肉用牛、2頭が乳用牛となっています。宮城県では、現在肉用牛についての定期検査を検討しているところです。

平成18年11月1日にヨーネ病防疫対策要領が改正されました。下痢、削瘦等の臨床症状がみられない時または継続発生がみられない時は、エライザー検査(血清)、糞便の培養検査等の定期的な検査により、12か月目の検査まで発生が認められない場合は、清浄農場となり、継続検査期間が従来の3年3か月から大幅に短縮されることになりました。

管内では、3年3か月の継続検査を終了し、あるいは要領の改正による継続検査期間の短縮による最終検査を終え、本年度5農場が清浄農場となりました。

ヨーネ病は、ワクチンによる予防法も薬剤による治療法もないため感染牛の早期発見・淘汰が重要です。今後とも関係機関と連携を密にし、定期検査、着地検査等により、早期発見-淘汰-まん延防止に努めたいと思います。

(防疫班 谷津直子)

〈実践大学校生の抱負〉

私の抱負

宮城県農業実践大学校畜産学部

1年 服部 泰啓



実践大畜産学部に入學して間もなく1年が経とうとしています。私は、入学当初から家畜人工授精師の資格取得を目標にしてきました。その対策講義が4月から始まろうとしている今、後継者としてこれからの農業をどう支えていけるのか

という不安も多々あります。しかし、仲間達という瞬間を大切にしていくことが就農した際に必ず支えになり、不安も無くなるはずだと信じています。

私の家では、水田2.3ha、繁殖牛33頭を飼養する専業農家ですが、いずれも将来的に規模拡大を目指していきたいと考えています。しかし、現実には自給飼料の確保や母牛の受胎率等に課題を抱えており、これらを解決することを第一に考えなければ規模拡大はままならないと思います。

本格的に専攻に分かれる4月から飼料作物の特性を学ぶと共に宮城の風土に適した飼料を効率的に栽培管理する技術の習得、耕作放棄地の活用や自分自身が興味を抱いている早期離乳方式の学習にも力を入れていきたいです。

プロジェクトⅡ(卒論)では、早期離乳方式を実際に経営に取り入れ、成果を上げている農家と我が家との経営の違いについて調査し、問題点を挙げ、改善策を検討し、今後の経営に生かしていきたいと思ひます。

兎に角今は、人工授精師資格取得のための勉強をしっかりとやりたいし、資格を取得した暁には、地域農業を支える一人として取り分け畜産振興に貢献していけるよう努力していきたいです。

また、学部の仲間とは日々の学習や寮生活を通して切磋琢磨し、将来、その仲間達と地域を越えた関係を維持するために情報交換を密にし、宮城の農業を担う者同士、助け合いながら活力ある農業の構築と自分自身を高めていけるよう弛まぬ努力をしたいと思います。

〈畜試便り〉

飼料用トウモロコシの播種は早めに！

宮城県畜産試験場

昨年から続く飼料価格の値上がりが畜産経営を圧迫するであろうという心配が、あちらこちらで聞こえるようになりました。今後の、乳用牛・肉用牛経営では自給飼料の生産が経営安定のカギを握ることになりそうです。

畜産試験場では、平成18年度より(独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所の研究課題「コントラクター等に対応した省力的飼料生産技術の開発」のうち「トウモロコシの作期移動試験による、二毛作限界地帯における作期分散のためのデータ蓄積」を受託・試験実施しています。

まだ、試験開始1年目ですが、7月に低温、日照不足、多雨に見舞われた平成18年の栽培結果をご紹介します。気象変動の大きい昨今、その影響を出来るだけ小さくし、安定した飼料作物栽培をするための参考にして頂ければ幸いです。

試験はパイオニアのディアHT(相対熟度(生育日数、以後RM)88日:極早生)、35Y65(RM108日:早生)、34B39(RM115日:中生)、31N27(RM125日:中晩生)の4品種を用いました。播種は4月25日、5月15日、6月5日、6月26日の約20日間隔の4期としました。

生育ステージは表1のとおりです。品種と播種期を組み合わせることによって、収穫適期(黄熟期)は2ヶ月以上になりました。

一方、同じ品種を比較しますと、稈長は播種期が遅くなる程短くなり、桿径は細くなりました。(図1、2)また、全体として、6月播種ではすす紋病が多発し、6月下旬播きでは倒伏が増加しました。(表1)

これらの結果、乾物収量は図3のとおりとなりました。ほぼ、早く播種した方が乾物収量もあがるという結果でした。

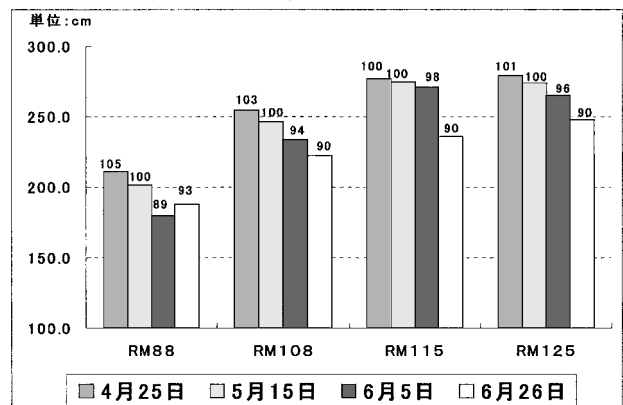
一般には播種の早晩は稈長には影響せず、桿径は細くなり、乾物収量は若干落ち、桿径が細くなることなどから、倒伏率が高くなるなどとされています。しかし昨年の気象状況では、稈長が短くなり乾物収量も大きく落ち込みました。これは7月の低温、日照不足等の影響と考えられます。単年度の試験結果で減収の要因を特定することはできませんが、飼料用トウモロコシの播種適期が桜の開花時期(平均気温10度)であることが改めて確認されました。

気象庁は3月9日、エルニーニョ現象は終息し、ラニャーニャ現象に移行すると考えられると発表しました。ラニャーニャに移行すれば7月の降雨は昨年以上となる可能性もあります。予測出来ない、昨年とも異なる栽培条件となるかもしれません。このような気象変動の大きな状況では、基本に忠実な適期の播種が、安定生産に向けた非常に有効な対策と考えられます。単作であれば田植え前、2毛作であれば出来るだけ早い播種を心がけられることを強くお奨めいたします。

表1 生育ステージと病害・倒伏

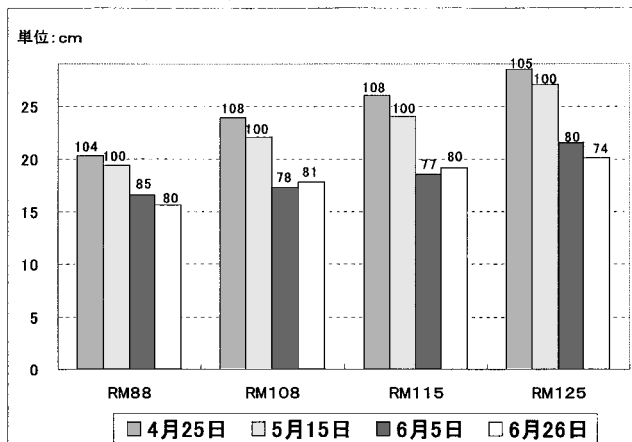
| 播種月日 | 品 種 | 生育ステージ | | | | すす紋 無1~甚9 | 倒伏 % |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------------|---------|
| | | 発芽期 | 絹糸抽出期 | 黄熟期 | 収穫日 | | |
| 4月25日 | ディアHT | 5/4 | 7/10 | 8/19 | 8/28 | 1.7 | 0.0 |
| | 35Y65 | 5/3 | 7/18 | 8/29 | 9/8 | 1.3 | 0.0 |
| | 34B39 | 5/3 | 7/24 | 9/3 | 9/11 | 1.7 | 0.0 |
| | 31N27 | 5/3 | 7/26 | 9/8 | 9/19 | 1.7 | 0.0 |
| 5月15日 | ディアHT | 5/22 | 7/21 | 8/26 | 9/4 | 1.0 | 0.0 |
| | 35Y65 | 5/21 | 7/28 | 9/10 | 9/19 | 3.3 | 0.0 |
| | 34B39 | 5/21 | 7/31 | 9/14 | 9/19 | 3.3 | 0.0 |
| | 31N27 | 5/22 | 8/2 | 9/12 | 9/25 | 3.3 | 0.0 |
| 6月5日 | ディアHT | 6/13 | 8/5 | 9/14 | 9/13 | 1.7 | 0.0 |
| | 35Y65 | 6/12 | 8/10 | 9/25 | 9/29 | 5.7 | 0.0 |
| | 34B39 | 6/12 | 8/14 | 9/29 | 10/3 | 5.0 | 3.9 |
| | 31N27 | 6/12 | 8/14 | 10/1 | 10/4 | 3.7 | 0.0 |
| 6月26日 | ディアHT | 7/1 | 8/19 | 9/30 | 10/3 | 5.3 | 2.5 |
| | 35Y65 | 6/30 | 8/23 | 10/16 | 10/12 | 8.3 | 4.2 |
| | 34B39 | 6/30 | 8/26 | 10/22 | 10/12 | 8.0 | 10.5 |
| | 31N27 | 6/30 | 8/27 | 10/25 | 10/25 | 7.7 | 10.9 |

図1 品種播種期毎の稈長



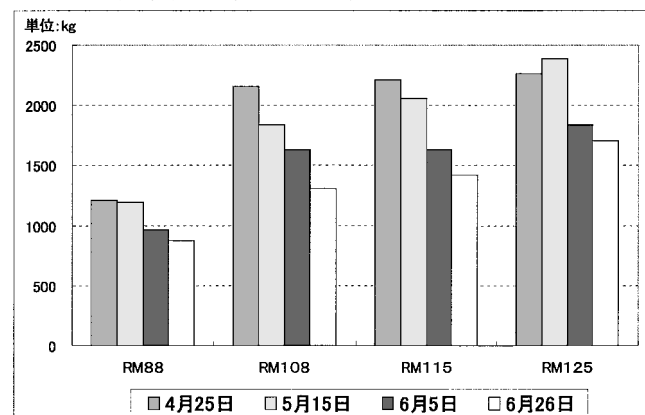
注1: 棒グラフ上の数値は5月15日を100とした場合の数値

図2 品種播種期毎の桿径



注1: 棒グラフ上の数値は5月15日を100とした場合の数値
注2: 地上部10cmの節間

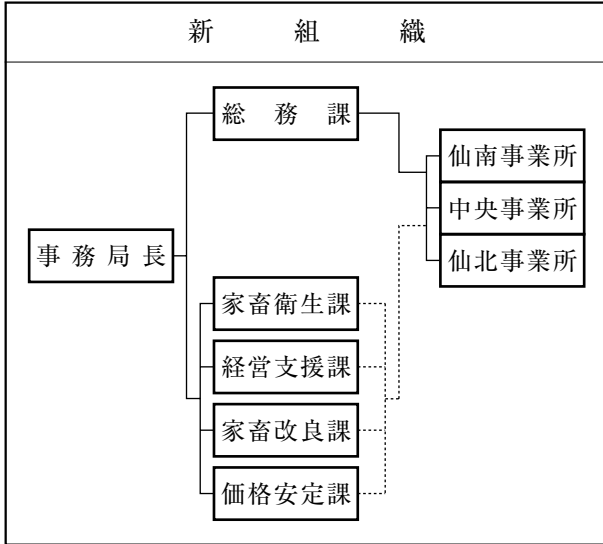
図3 品種播種期毎10a当たり乾物収量



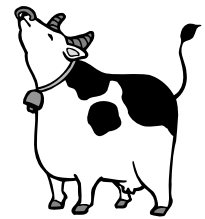
(草地飼料チーム)

社団法人 宮城県畜産協会 組織機構改編のお知らせ

平成19年4月1日より(社)宮城県畜産協会の組織機構を下記のとおり改編いたしましたのでお知らせします。



- 総務課 (マルキン) TEL 022-298-8471 FAX 022-293-2311
TEL 022-298-8475
- 経営支援課 TEL 022-298-8473 FAX 022-292-5395
- 家畜改良課 TEL 022-298-8476 FAX 022-292-5395
- 家畜衛生課 TEL 022-298-8472 FAX 022-293-2311
- 価格安定課 (子牛) TEL 022-298-8474 FAX 022-257-4315
- 仙南事業所 TEL 0224-52-2523 FAX 0224-51-1103
- 中央事業所 TEL 0229-34-3304 FAX 0229-35-1157
- 仙北事業所 TEL 0220-21-1552 FAX 0220-22-2223



| 課名 | 事業名 | 課名 | 事業名 |
|-------|---|-------|---|
| 総務課 | <ul style="list-style-type: none"> ・収支予算の執行、事業報告、決算並びに他課に属さない事項 ・肉用牛肥育経営安定対策事業 ・畜産関係団体調整機能強化に関する事項 ・宮城県養蜂協会・地域畜産振興事業対策協議会事務局及び関連業務 | 家畜改良課 | <ul style="list-style-type: none"> ・家畜人工授精用精液流通調整事業 ・豚の登記、登録 ・宮城県総合畜産共進会関係事業 ・改良増殖技術実態調査業務に関する事項 ・宮城県ホルスタイン協会事務局 ・宮城県家畜人工授精師協会事務局 ・宮城県ホルスタイン改良同志会事務局 |
| 経営支援課 | <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営技術高度化促進事業 ・肉用牛生産経営技術改善事業 ・宮城県総合畜産共進会関係事業 ・地域養豚振興特別対策事業 ・肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業 ・畜産特別資金融通助成事業 ・大家畜経営改善支援資金借受者指導業務 ・中央畜産情報活性体制整備事業 ・畜産機械貸付調査指導事業 ・地域畜産ふれあい交流体験推進事業 ・先進的生産経営実態調査事業 ・乳用種育成経営等調査事業 ・宮城県指定種豚場協議会事務局 ・宮城県食肉消費対策協議会事務局 | 家畜衛生課 | <ul style="list-style-type: none"> ・自衛防疫推進事業 ・家畜生産農場清浄化事業 ・畜産環境清浄化事業 ・死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業 ・家畜防疫互助基金造成等支援事業 ・育成馬予防接種事業 ・繁殖牝馬予防接種事業 |
| | | 価格安定課 | <ul style="list-style-type: none"> ・肉用子牛生産者補給金制度 ・肉用子牛生産者補給金制度適正化事業 ・子牛生産拡大奨励事業 |

※仙北事業所が3月27日移転しました。

新住所 登米市迫町北方字泥木沢4-2 JAみやぎ登米 日向店内
 TEL: 0220(21)1552
 FAX: 0220(22)2223

〈人の動き〉

宮城県

退職 (3月31日付け) 産業経済部技術参事 (監視伝染病対策担当)

高橋 勝一

(平成19年4月1日付)

| 新 | 旧 | 氏名 |
|-----------------------------------|---------------------------------|--------|
| 農林水産部技術参事 (監視伝染病対策担当) | 大崎家畜保健衛生所長兼大崎地方振興事務所畜産振興部長 | 田中 廣 |
| 農林水産部畜産課副参事兼課長補佐 (総括担当) | 保健福祉部医療整備課副参事兼課長補佐 (総括担当) | 亀井 雄一 |
| 農林水産部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当) | 登米家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) | 横山 亮一 |
| 兼環境生活部食と暮らしの安全推進課食の安全安心推進員 | 大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼登米地方振興事務所 | 高橋 幹夫 |
| 農林水産部畜産課長補佐 | 仙南保健福祉事務所地域保健福祉部次長 | 伊藤 敦実 |
| 農林水産部畜産課技術補佐 (班長) | 仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台地方振興事務所 | 藤 昌芳 |
| 農林水産部畜産課技術補佐 (班長) | 大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼大河原地方振興事務所 | 山 昌潤 |
| 農林水産部畜産課技術主幹 | 仙台地方振興事務所地方振興部企画員 | 遠藤 隆稔 |
| 農林水産部畜産課技術主査 | 仙台地方振興事務所技術主査兼仙台農業改良普及センター | 豊島 隆治 |
| 農林水産部畜産課技術主査 | 登米家畜保健衛生所技術主査兼登米地方振興事務所 | 網代 永治 |
| 農林水産部畜産課技術主査 | 仙台家畜保健衛生所兼仙台地方振興事務所 | 猪股 永治 |
| 農林水産部畜産課 | 石巻地方振興事務所兼仙台家畜保健衛生所 | 鈴木 泰一郎 |
| 農林水産部畜産課 | 大崎家畜保健衛生所兼大崎地方振興事務所 | 丸尾 泰一郎 |
| 農林水産部畜産課 | 大崎地方振興事務所 | 後藤 司朗 |
| 大河原家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) | 新規採用 | 及川 恵壽 |
| (食の安全安心担当) 兼大河原地方振興事務所 | 大崎家畜保健衛生所次長 (総括担当) | |
| 大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) | (食の安全安心担当) 兼大崎地方振興事務所 | |
| 兼大河原地方振興事務所地方振興部企画員 | | |
| 大河原家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼大河原地方振興事務所 | 仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台地方振興事務所 | 岸田 忠政 |
| 大河原家畜保健衛生所主任主査兼大河原地方振興事務所 | 栗原地方振興事務所畜産振興部技術主幹兼登米家畜保健衛生所 | 西川 彰子 |
| 仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台地方振興事務所 | 農業実践大学校技術主査 | 目黒 忍子 |
| 仙台家畜保健衛生所技術主幹兼仙台地方振興事務所 | 大崎家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼大崎地方振興事務所 | 谷津 直子 |
| 仙台家畜保健衛生所技術主査兼仙台地方振興事務所兼 | 産業経済部農業振興課技術主幹 | 曾根 文浩 |
| 仙台家畜保健衛生所 | 産業経済部畜産課技術主査 | 高橋 幸治 |
| 仙台家畜保健衛生所 | 登米家畜保健衛生所兼登米地方振興事務所 | 長内 直佳 |
| 大崎家畜保健衛生所長兼大崎地方振興事務所畜産振興部長 | 新規採用 | 千川 幸夫 |
| 大崎家畜保健衛生所次長 (総括担当) | 栗原地方振興事務所畜産振興部長兼登米家畜保健衛生所次長 | 川村 芳夫 |
| (食の安全安心担当) 兼大崎地方振興事務所 | 産業経済部畜産課技術補佐 (班長) | 松田 悦子 |
| 大崎家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼大崎地方振興事務所 | 畜産試験場主任研究員 | 高田 直和 |
| 大崎家畜保健衛生所技術主幹兼大崎地方振興事務所 | 産業経済部研究開発推進課技術主幹 | 及川 克徳 |
| 大崎家畜保健衛生所兼大崎地方振興事務所 | 仙台家畜保健衛生所兼仙台地方振興事務所 | 矢島 りさ |
| 登米家畜保健衛生所次長 (総括担当) | 大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) | 高橋 健 |
| (食の安全安心担当) 兼登米地方振興事務所 | 兼大河原地方振興事務所地方振興部企画員 | 鈴木 秀彦 |
| 登米家畜保健衛生所主任主査兼登米地方振興事務所 | 産業経済部畜産課主任主査 | 高橋 昌美 |
| 登米家畜保健衛生所 | 新規採用 | 高橋 昌典 |
| 石巻地方振興事務所兼仙台家畜保健衛生所 | 大河原家畜保健衛生所兼大河原地方振興事務所 | 高森 広樹 |
| 栗原地方振興事務所畜産振興部長兼登米家畜保健衛生所次長 | 大河原家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) | 渡部 正樹 |
| 栗原地方振興事務所畜産振興部技術主幹 | (食の安全安心担当) 兼大河原地方振興事務所 | |
| 畜産試験場次長 (総括兼班長) | 産業経済部食産業・商業振興課主任主査 | 齋藤 裕善 |
| 畜産試験場酪農肉牛部技師 | 土木部建築宅地課 課長補佐 (班長) | 高野 久美 |
| 石巻地方振興事務所農業振興部農業普及指導専門監 | 新規採用 | 富樫 美紀子 |
| 兼石巻農業改良普及センター農業普及指導専門監 | 産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当) | 菊田 正信 |
| 兼石巻農業改良普及センター農業普及指導専門監 | 兼環境生活部食と暮らしの安全推進課食の安全安心推進員 | |
| 教育庁文化財保護課副参事兼課長補佐 (総括担当) | 産業経済部畜産課副参事兼課長補佐 (総括担当) | 宗像 丈營 |
| 土木部営繕課長補佐 (庶務担当) | 産業経済部畜産課長補佐 | 瀬戸 重幸 |
| 農林水産部農業振興課技術主幹 (畜産指導担当) 兼畜産試験場 | 産業経済部畜産課主任主査 | 石川 知浩 |
| 仙台地方振興事務所主任主査兼仙台農業改良普及センター | 産業経済部畜産課主任主査 | 山田 智子 |
| 気仙沼地方振興事務所主任主査兼本吉農業改良普及センター | 産業経済部畜産課技術主査 | 熊谷 弘明 |
| 農林水産部食産業振興課技術主査 | 産業経済部畜産課技術主査 | 小野寺 伸也 |
| 大河原地方振興事務所農業振興部技術次長 (班長) | 仙台家畜保健衛生所技術主幹 (班長) | 大友 一博 |
| 兼大河原農業改良普及センター | 兼仙台地方振興事務所地方振興部企画員 | |
| 農林水産部農業振興課技術主幹 (農業経営指導担当) | 大崎家畜保健衛生所技術主幹兼大崎地方振興事務所 | 嶋田 俊治 |
| 兼農業・園芸総合研究所 | 畜産試験場副参事兼次長 (総括担当兼班長) | 今宮 新一 |
| 栗原地方振興事務所総務部副参事兼次長 (総括担当) | 産業経済部農業振興課技術補佐 (畜産指導担当) 兼畜産試験場 | 津場 俊行 |
| 栗原地方振興事務所農業振興部次長 (総括担当) | | |
| (食の安全安心担当) 兼栗原農業改良普及センター次長 (総括担当) | | |

全国農業協同組合連合会宮城県本部

(平成19年 4月 1日付)

| 新 | 旧 | 氏 名 |
|---|---|--|
| 管理部付 北日本くみあい飼料(株)出向 畜産課長補佐兼肉牛PC所長 畜産課 仙北食肉販売所長 管理部付 北日本くみあい飼料(株)出向 管理部付 (社)宮城県畜産協会出向 | 副本部長 畜産課長補佐 管理部付 (社)宮城県畜産協会出向 管理部付 北日本くみあい飼料(株)出向 仙北食肉販売所長 畜産課 生産基盤対策事業専任兼肉牛PC所長 | 庄 司 俊 一 佐々木 仁 金 田 俊 一 太 宰 仁 熊 谷 誠 毅 安 部 俊 也 |

宮城県農業共済組合連合会

退職 (3月31日付) 総務部企画課課長補佐
 退職 () 県南家畜診療センター所長
 退職 () 県北家畜診療センター庶務課長補佐
 退職 () 中央家畜診療センター嘱託

吉 田 一 惠
 佐 藤 繁
 鈴 木 悦 子
 早 坂 雅 孝

(平成19年 4月 1日付)

| 新 | 旧 | 氏 名 |
|--|---|---|
| 農産部農産課課長補佐 家畜部家畜課長補佐 家畜部家畜課長補佐 総務部情報システム課電算管理係長 家畜部家畜課診療指導係長 県南家畜診療センター所長兼庶務課長 県北家畜診療センター所長 県南家畜診療センター損防課長 県北家畜診療センター損防課長 県北家畜診療センター庶務課長 家畜診療研修所指導課長兼中央家畜診療センター 県南家畜診療センター損防課長補佐 県北家畜診療センター庶務課長補佐 中央家畜診療センター損防課技術主査 県北家畜診療センター診療課技術主査 県北家畜診療センター嘱託 県南家畜診療センター 書記 家畜診療研修所 技師 家畜診療研修所 技師 | 家畜部家畜課長補佐 県南家畜診療センター庶務課長補佐 総務部公報課長補佐 家畜部家畜課診療指導係長 総務部情報システム課電算管理係長 県南家畜診療センター次長 県北家畜診療センター所長兼庶務課長 県南家畜診療センター庶務課長 県南家畜診療センター損防課長 家畜診療研修所指導課長 県北家畜診療センター損防課長 県北家畜診療センター損防課長補佐 家畜部家畜課長補佐 県北家畜診療センター診療課技術主査 中央家畜診療センター損防課技術主査 県北家畜診療センター庶務課長補佐 新規採用 新規採用 新規採用 | 紺 野 浩 一 日 下 祐 子 佐 藤 伸 夫 須 藤 聡 山 澤 幸 雄 熊 谷 敏 信 千 葉 正 寛 高 橋 一郎 鈴 木 利 行 小 野 秀 弥 一 條 浩 幸 齋 藤 孝 節 八 島 正 子 早 久 正 範 鈴 木 悦 子 伊 藤 真 美 大 森 慎 一 加 瀬 瞳 |

社団法人 宮城県畜産協会

退職 (3月31日付) 事務局長
 退職 () 嘱託

大 橋 義 信
 堀 内 政 昭

(平成19年 4月 1日付)

| 新 | 旧 | 氏 名 |
|--|---|---|
| 事務局長兼家畜衛生課長 中央事業所長 経営支援課長 (社)岩手県畜産協会出向 経営支援課技術主幹 仙北事業所長 家畜改良課長心得 全農宮城県本部 家畜改良課技師 家畜改良課技師 家畜衛生課嘱託 | 宮城県実践大学校長 次長兼経営支援課長 仙北事業所長 衛生検査課長 全農宮城県本部副審査役 中央事業所長 経営支援課嘱託 衛生検査課長補佐 衛生検査課技師 経営支援課技師 経営支援課嘱託 | 秀 島 理 明 板 橋 一 男 山 田 文 彦 半 田 好 昭 安 部 俊 也 菊 地 安 徳 吉 岡 耕 三 郎 金 田 俊 一 伊 藤 利 樹 柴 藤 利 樹 谷 津 邦 郎 |